

かわさき区の宝物シート

宝物No.
1-17

きゅうろくごうばしおやばしら(いなげこうえん) 旧六郷橋親柱(稲毛公園)

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



昭和15年当時の旧六郷橋と親柱
写真提供：倉形泰造氏



所在地	川崎区宮本町7 稲毛公園内
問い合わせ	川崎市建設緑政局道路河川整備部道路施設課
TEL	044-200-2801
FAX	044-200-7703
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分



基礎情報

- 大正14年(1925)から昭和59年(1984)まで多摩川に架かっていた旧六郷橋の親柱。当時は一般国道15号のランドマークとなっていた。
- 新橋架設時に撤去された親柱4基のうちの1基が川崎市土木事務所(現・川崎区役所道路公園センター)に保管されていたが、川崎の貴重な近代化遺産のひとつとして、平成14年(2002)11月、川崎商工会議所・国・市・地域住民の協力のもと、稲毛公園内への移設、公開が決定した。

由来・エピソード

- 六郷川(多摩川下流部の旧名)は、流域の人々に恵みの水を与える一方で、しばしば洪水の厄災をもたらしてきた。六郷橋の歴史は洪水との格闘の歴史であった。この地に初めて橋を架けたのは徳川家康。慶長5年(1600)に西国との往来のため「六郷大橋」を建造した。洪水の度に修復や架け直しを繰り返したが、やがて貞享5年(1688)7月の大洪水による橋の流失を機に幕府は架橋を断念し、明治期まで渡し船による渡河が続くことになった。
- 明治7年(1874)、対岸の八幡塚村の名主・鈴木左内が私財を投じて木橋「左内橋」を架けるが、4年後に流出。明治16年(1883)に八幡塚村と川崎の有志が共同出資して架けた「六郷橋」も明治43年(1910)の大洪水で流出した。大正に入り、近代化に即応した陸上輸送の強化を目的に、東京府と神奈川県によって建造されたのが「旧六郷橋」である。大正14年(1925)、長さ444mの近代的なコンクリート橋が完成した。
- 橋体の主体がすべて鉄構造のタイドアーチ型の橋梁。新橋に架け替えられるまでの約60年間、「陸路の帝都の門」として、また第一京浜(一般国道15号)のランドマークとして活躍し、大正期から昭和期にかけての工場や水門、運河など様々な基盤整備を推進した川崎の近代化の象徴となった。
- 昭和59年(1984)老朽化によって現在の「新六郷橋」へと架け替えられ、4基の親柱は撤去された。稲毛公園に移設された親柱の内、1基は川崎市土木事務所に保管されていたもの、もう1基は国交省川崎国道事務所から移管されたものである。

補足・その他

- 対岸の大田区側の新六郷橋のもとには、旧六郷橋の橋門と親柱が保存されている。また、木造時代の六郷橋の橋柱も六郷神社(大田区東六郷3-10-18)に保存されている。

関連シート

- (5-1)六郷の渡し・明治天皇の碑
- (14-1)多摩川(河口干潟・桜並木)
- (4-6)標柱「国府県道路管理境界標」